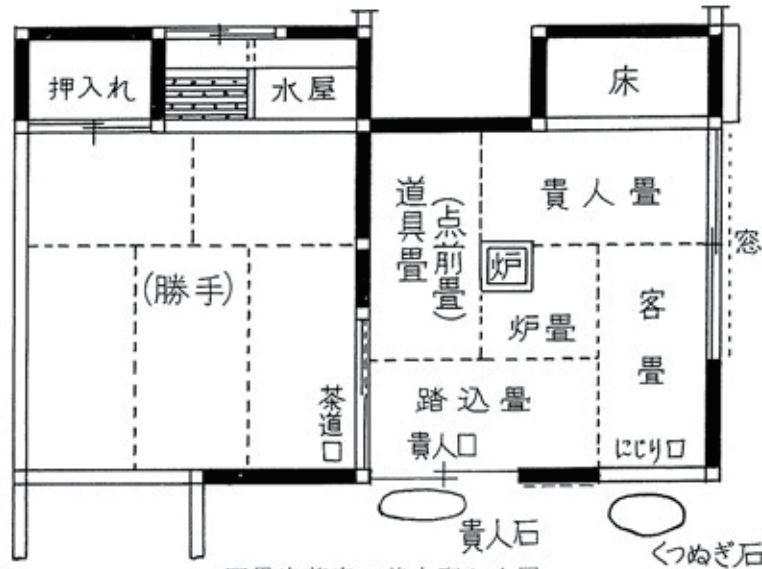


茶室と水屋

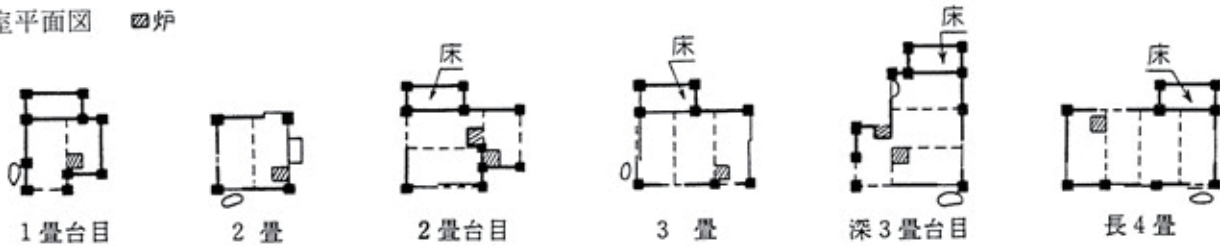
○茶室 主家内の一部に設けた小室で食事(懐席)、喫茶、点茶等をする室。古くは、茶湯座敷、数寄屋、囲(かこい)などといい、茶室と呼ぶようになったのは、江戸以後のこと、四畳半を基本とし、三畳、二畳或いは、台目畳を用いて最小一畳台目まである。

○水屋 茶室の隅に設けたり、隣室に設け、茶会等の準備やあと始末をする所。
 ○茶亭 敷地内に設けた専用の小建物。
 ○広間 四畳半以下を小間と云い、それ以上を呼ぶ。12畳以上は大広間。

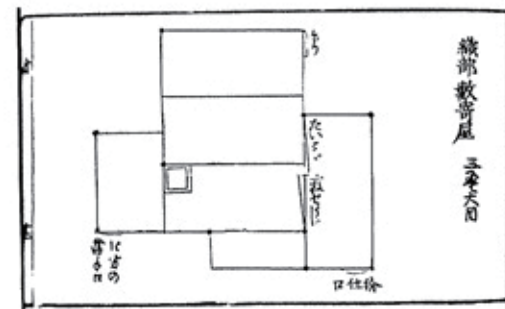
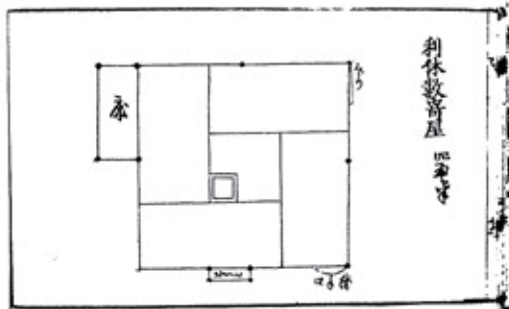
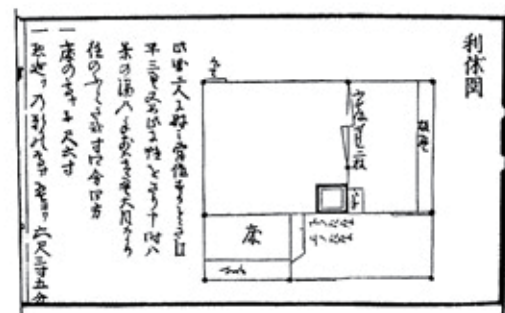
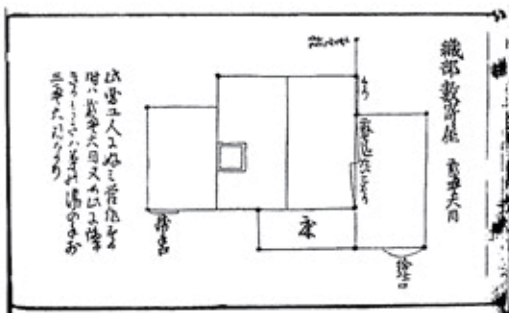


四畳半茶室の基本型と水屋
(四畳半切り本勝手)

茶室平面図 畳



台目 (だいめ) とは、台目畳の略で台子(だいす)を置くだけの畳目を除いたもの。普通には畳の4分の1だけ切りとったものを使っている。
 台子 (だいす) とは、茶具一式を入れておく棚物のこと。



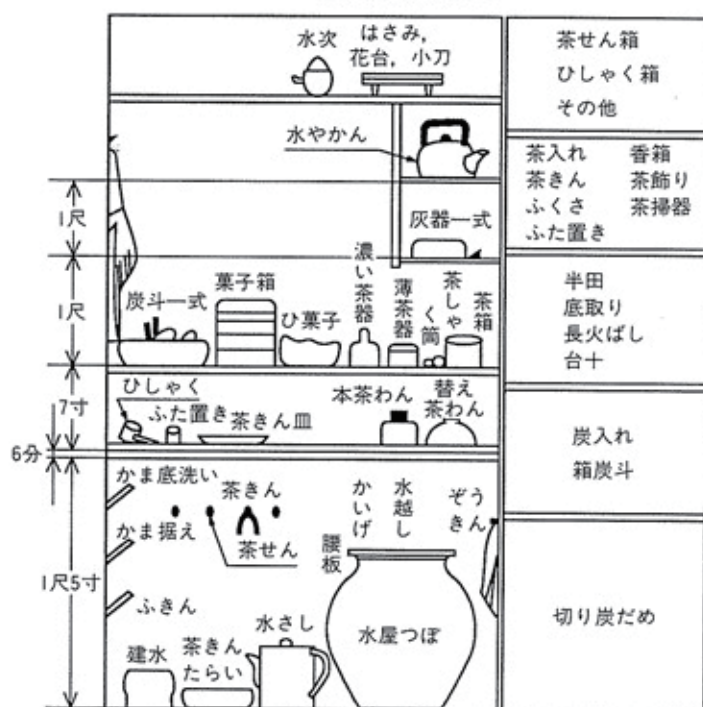
大匠雛形(享保2年発行)の数寄屋雛形ヨリ

茶室と水屋

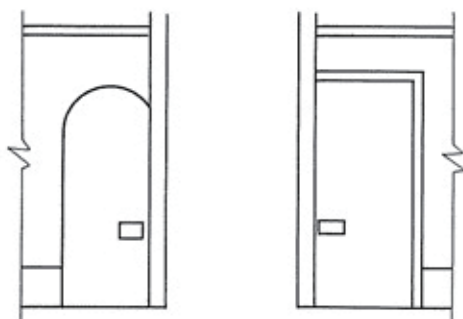
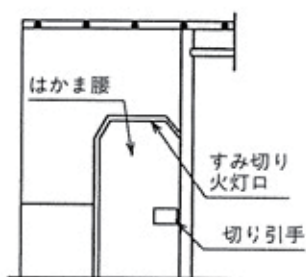
水屋(みずや)

水屋は茶会等の準備やあと始末をする場所と同時に茶事の大切な道具類を置く場所です。水屋の拝見をするのも儀礼となっており、道具の置き方も重要となり水屋の構造や形式、用材に至るまで拝見の対象となっております。

水屋飾りの基本

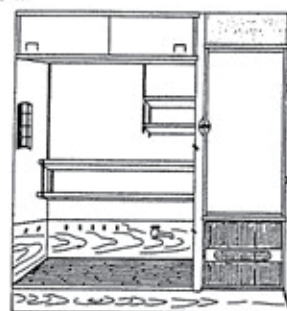


茶道口：勝手口給仕口ともいい主人等の出入口。

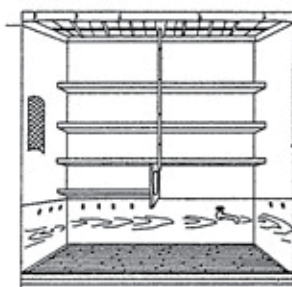


水屋の二基本形式

表千家流

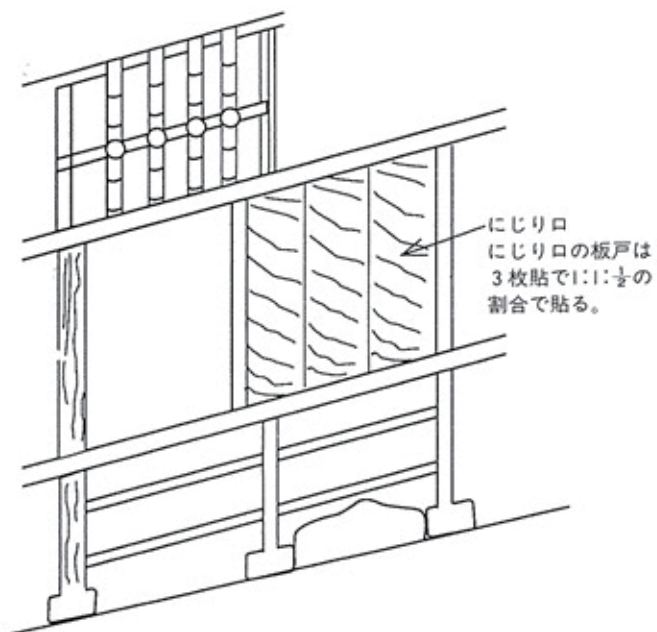


裏千家流



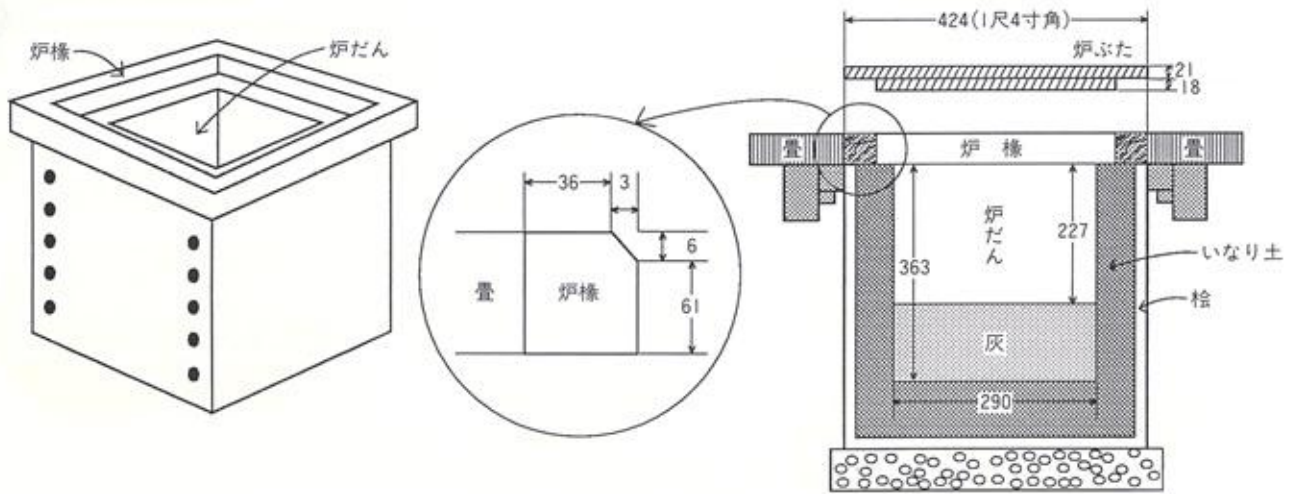
にじり口：茶室特有の出入口、体をにじって出入する巾591㍓(1尺9寸5分)高さ682㍓(2尺2寸5分)が定法。

貴人口：貴人のための特別の出入口、立ったまま出入りが出来る。普通の人にはにじり口から出入する。



茶室と水屋

炉



炉 椽 広間の場合は真塗り、かき合せ、高台地まき絵等を用い、小間の場合は、北山丸太、沢ぐり等を用いる。
炉だん 鉄・銅製は床に落とし込み、陶磁器製、石造ものは据え付ける。
炉ふた 桐、松、杉、樺等を用いる。

炉椽



真塗呂色



かき合せ



本桑



沢栗



樺



黒柿

炉だん



銅炉だん



本炉だん



置炉だん

自在鉤(じざいかぎ)

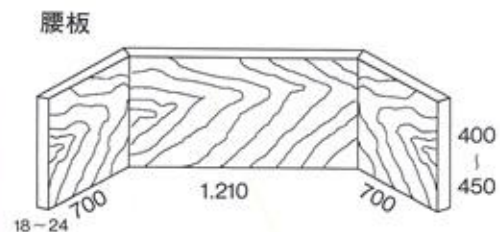


炉の中心真上の天井に付ける鉄製のかん、6分、5分アリ

茶室と水屋

水屋各部詳細(6尺水屋の場合)

名称	使用材料他	寸法
ランマ板	桐・杉材	1,210×150×18~24
二重つり棚	片端喰加工杵・桎	288×252×12~18
吊木	赤杉角・女竹・煤竹	
通シ棚板(上)	杉(杵・桎)	1,210×240~300×24
すの子棚板(下)	寒竹ばさみ杉材	1,210×210~250×18~21
腰板	赤杉(杵・桎)	1,210×400~450×18~24
すの子	赤銅線入晒竹	1,210×450~600×15φ
前板	杉材	1,210×300~360×24
水屋脇もの入れ	4段杉材	600×363~485×24~30
片開き戸	杉・アジロ・襖	1,210×600
炭入れ(外・内箱)	白太・小節可	300×300×300×18 267×267×273×12



金具類



丸打掛(にじり口戸締用)



鉄頭巻釘(すの子、にじり口戸他)



鉄替折釘(生垣高塀、竹用等)



三福対(床の軸掛、廻縁等)



竹釘(軸掛、水屋用等)



稲妻釘(どら釣り用)

折釘(額受け、掛戸用等)



袋釘(袋をかける)



落掛釘(一輪花生用)



朝顔釘(下地窓花生用)



無双釘(床花生用)



半鐘樟木付(客の待合、床脇)